

修了生からの  
お便り



## 子どもの声を 生かして

小学校教員としてちょうど十年勤め、  
教職大学院へ進みました。

私の教職大学院との出会いは、勤務  
校で「学校支援プロジェクト」の支援  
を受けたことです。当時、教職大学院  
担当教員の研究室の皆さんと国語の授  
業づくりを協働して行う機会を得まし  
た。授業づくりを行う中で、国語の魅  
力に惹き込まれていき、これまで、これ  
といって専門領域はなかった私にとつ  
て、学校支援プロジェクトとの出会いは  
ターニングポイントとなりました。

そして教職大学院では、支援を受け  
入れる側から支援する学校へ入らせて  
いただくという立場へ。授業支援して  
もらった経験を思い出したり、アドバ  
イザーの先生方から助言をいただきな  
がら、支援校の研究推進のお手伝いを  
させていただきました。二年間の支援  
プロジェクトを通じて、国語の授業つ  
くりの在り方と、連携する大切さを学  
びました。今は、その学びを現場に還  
元することが目標です。

今年度は五年生を担当しています。授  
業では子どもの興味や問題意識はどこ  
にあるか。また、子どもがどのような  
思考をしているのかを探るため、子ど  
もの声に耳を傾けるようになりました。  
秋に国語で単元を開発。子どものふる

さとと子どもの未来について考えるとい  
う単元です。地域の人や家族、親戚  
の方の声を取材し、印象に残った言葉  
を引用して自分の考えをつくつていき  
ます。そして、この授業を通し、友達  
とのかかわりの中で考えが変容したり  
深まったりする姿も見られました。今  
後は、これまでの教師主導型の授業を、  
子ども自ら知識を創造していくような  
授業にシフトチェンジしていくことが  
課題です。

最後に・・・自宅から上越教育大学  
まで数分という地の利から、附属図書  
館を今でも利用させてもらっています。  
卒業生や修了生だけでなく、市民の方も  
利用できるとのこと。ぜひ、足を運ん  
でみてください。



小川 高広  
(おがわ たかひろ)

新潟県長岡市出身。新潟県内の公立小学校で10  
年の勤務を経て、教職大学院教育実践リーダーコー  
スへ。平成26年3月修了。現在は上越市立下黒川  
小学校に勤務。学会へも積極的に参加。